

## 平成 30 年度 第 2 回西蒲区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成 30 年 12 月 20 日(木)午後 1 時 30 分から午後 3 時まで
会 場	巻地区公民館 3階 大講堂
出席者	西蒲区自治協議会委員26名(欠席4名) 教育委員:田中教育委員,小野沢教育委員 事務局:地域教育推進課長,教育総務課長補佐,学校支援課長補佐 巻地区公民館長,西川図書館長,教育総務課主査 西蒲区教育支援センター所長 他1名 西蒲区役所:区長,副区長,副参事 傍聴者:0名(報道0名) 基原稿
議 事	1 開会 2 教育委員挨拶(田中教育委員,小野沢教育委員) 3 懇談 テーマ:西蒲区に住む子どもたちを育てる ～子どもたちに西蒲区への愛情と誇りを育むには～ (1) 実践紹介 ①中之口地区一斉防災訓練「地域の絆づくりをめざして」 ・新潟市立中之口中学校 校長 西村 渉 ②つながりで羽ばたこう 鎧 GO! 2018 ・新潟市立鎧郷小学校 教頭 竹石一博 地域教育 Co 眞島 幸代 (2) 意見交換 ①テーマ,課題の解決に向けての意見交換 ②発表
自治協委員 第1グループ	素晴らしい発表に感謝。 まず,中之口の防災訓練のこと。 防災訓練は各自治区でやられているが参加者は大人がほとんどで子どもたちが携わるということはありません。そんな中,中学生を巻き込んで防災訓練をやった。目標,ゴールイメージ持たせて行ったことがすごくよかった。子どもたちが活動を通じて何を学ぶのかがはっきり出ていた。まず自分の命を守ること,それから協働で地域を守っていくことに気付くことができた。また子どもたちの意見の中には,地域の一員としての誇りと愛着を持たせたという発言があった。今回の活動に参加したことによって地域のことを学び,大人との結びつきもでき,そういう中で地域を振り返ることができた。 二つ目の鎧郷小学校の話。 そら野テラスに着眼されたのがすごくよかった。各学校では,いろいろなものを育てているが,そこから先に進んで地域の特産を活かした商品化ということをやっている学校は少ないのではないかと。地域の店とタッグを組んで商品化する活動を

通して、地域の特産品を勉強し、自分たちが発想したものが商品化され、大変よく売れ大成功となった。その成功経験が子どもたちにとっての自信になる。そして、将来的に地域に残って新しい商品を考える人になってなりたいという。それを考えることは地域の発展につながるというところに子どもたちが気づけたことが今日のテーマそのもの。

巻北小学校の3年生で、特産品を作れば街が元気になるのではないかとということで商工会の立場で手伝いをさせてもらった。街にあるお店と子どもたちを結び付け、子どもたちが考えた商品が商品化できればベストだったが商品化まではいけなかった。ただ子どもたちが発送した商品と非常によく似た商品がすでにあっただので、そこに子どもたちが考えたパッケージを利用して販売することを約束してくれたお店があって、子どもたちは、自分たちが考えたアイデアの一つが形になるということですごく喜んでいました。子どもたちには、そういった成功体験を積み重ねること、それが地域の人と一緒にやるということが地域への誇り、また愛着となっていくのだなというのが1班の結論。

自治協委員  
第2グループ

2班です。この本当の大きなテーマは何だったかというテーマを意識せず話し合いを進めてしまった。子どもたちに西蒲区への愛情と誇りを育むためにはというのが大きなテーマなのですが、何とか結び付けたいと思います。

まず中之口について。それぞれの地域で防災訓練というのはいかに行われ、子どもをどのように取り込んでいけるかが話の中心になった。中之口では自主防災会というものが訴えられたときに、金銭的補助があるということで自主防災会に積極的にかかわっていた。そしてコミュニティ協議会が主体となって、数年間、アルファ化米や防災的な用具も整えてきた。そして今年初めて小学校と協働する形で防災訓練をやった。それは一歩も二歩も前進で、これが積み重ねられていくことが大事ではないかという話だった。

岩室は、防災に関してはコミュニティ協議会単位での取り組みはしっかりやってきているが、学校を取り込む形ではないのでいずれやってみたい。巻地域は、地域が非常に広いので、地域単独でそれぞれで一生懸命やっている。松野尾も、コミュニティ協議会単位での防災訓練を真面目にやってきました。備蓄、防災用具の準備をしながら年1回の防災訓練に取り組んでいる。

本当に子どもたちや、弱者、お年寄りとかを本当に防災訓練に巻き込めるのかということは、コミュニティ協議会でも話をしてきた。区からの指導もあり学校を防災に位置づけたらどうかということで、今年初めて小学校と地域防災と一緒にできた。学校が一番大事にしたのは、最後に保護者来てもらい、きちんと生徒を帰せるかということで、いい経験になった。子どもたちの目が、こういう活動を通して少しずつ地域に向いていく。

鎧郷小学校のことについては、これは非常に地域に本当に取り込んでいくと、一つの手段としてやっているということでありますので、地域を知ろう、地域に愛着をもとうというのが実践されているのだろうということであります。

岩室から、子どもたちと一緒に地域を歩く活動があり、子どもたちの地域を見る

目が変わってきたという話があった。気づかせる地域というものはどういうものなのか、地域で文化行事や文化活動、地域活動を知るとはどういうことなのかということ、小さいころから分らせる活動というものが大事なのではないかということ。

自治協委員  
第3グループ

内容は、発表された中之口中学校、鎧郷小学校のことについての感想や意見、そして新潟市教育委員会から出された学力、行動のデータについて。

1番目の中之口中学校。老人の立場から、お年寄りや介護を要する人の訓練はどうするのかという話があった。これは小中学校の訓練では難しい。実際に何か起きたときに介護や救助を要する人についてはマル秘の文書となっているので自治協議会やコミュニティ協議会単位の訓練でしかできないのではないかと。それから、中之口の方から自主防災組織はあったけれども避難訓練は今回が初めてだったと聞いた。西川地区はそれほど充実したものではないが15年くらいやっている。一つの狭い避難場所に3,800世帯が集まるはずがなく、距離的な問題もあるので、最近では各町内会単位、自治会単位でやるようになってきている。大人も一緒に避難訓練は、巻西中学校ではできないのではないかと。理由は、小中3校なら、午後から一斉にやればできるけれども、巻西中学校の場合は、エリアが広く越前小学校から巻北小学校まで入っているから中之口方式ではできないのではということだった。

その次、鎧郷小学校。一言でいうとよかった、素晴らしかったということ。ただ食べ物を作るだけではなく、子どもと地域が交わりをもつということは、大変大事なことでないかということだった。

最後、教育委員会のデータについて。西蒲区は地域のボランティア活動が悪いようだが、西川地域では小・中学校ともとても行事に参加している。教師の主観なのか、抽出した子どもたちなのか、どういう方法でこのデータを作ったのか聞きたいと思った。

自治協委員  
第4グループ

4班。私たちは、今日のテーマである「子どもたちに西蒲区への愛情と誇りを育むには」について重点的に話した。この班には巻北小学校、巻南小学校の総合の時間に10年にわたっていろいろな話をされている河合さんがいた。巻の特産品の話をはじめ、全国で初めてこの巻がまちになったとか、地ビールを初めて作ったとか、子どもたちが知らない話をたくさんしてくださっていて、子どもたちの間では「巻名人」と言われている。河合さんが話をするときの子どもたちの目は本当に輝いていて、終わった後、家に帰ってお父さんとお母さんにそれを話す。この素晴らしい話を聞いた子どもたちが、将来遠くに出ることがあっても戻ってきてくれるのではないかと。子どもたちに西蒲区への愛情と誇りを育むために、これからもずっとこの活動を続けていくことが大事。

自治協委員  
第5グループ

5班。一応テーマに沿って話を始めたが、まとまりがつかないかもしれない。出た話を箇条書きで紹介する。

中之口の防災のことで話が出たとき、中学生がお年寄りを誘導してはという意見が出たが、その当日、車いすの手伝いをしてくれたという話があった。角田コミュニティ協議会での話だが、今年1月の大雪のときに、中学生がPTA会長の声掛

けがで、一人暮らしのお年寄りとか、車が動けなくなったようなところなども、子どもたちが非常に活躍してくれた。子どもたちは、その活躍の場が与えられると、非常にその力を発揮してくれる。中学生は戦力で、災害になったときに非常に力を出してくれるということが今日の話の中にもあった。子どもたちが力を出す場をどのように与えてあげられるかということが大人の役割ではないか。

半面、地域の中で助け合い活動が減ってきている。つながりがうまくなくなってきているのではないか。つながりをつくるために、地域の行事にもっと参加する。先ほどのアンケートの中にもあったが、行事はあるが、なかなか子どもたちが参加できない状況にあるようにも思う。祭り、運動会も地域の中で縮小、もしくはなくなっている現状がある。地域が個人主義をやめる。また、地域をもっと知る動きが大事なのではないか。子どもを地域へ出してほしいが、土日は部活でなかなか動けない。要請もなかなかしにくい。地域が変わらないといけない。自分の地域を知る。これは、大人も子どもも、ともにもっと地域を知る努力が必要なのではないかと、いうところで時間がきた。

#### 議 事 4 教育委員挨拶(田中教育委員、小野沢教育委員)

小野沢 鎧郷小学校のそら野テラスでのプレゼンテーションは、私も見させてもらった。  
教育委員 そら野テラスの藤田さんが、子どもたちに対してプロが感じていることをズバットおっしゃった。子どもたちは、小さなもののでいいのではないかと言ったら、小さいものを作るのと普通のサイズを作るのとコストは一緒、小さくしようと思えば余計手間がかかるから却下ということ、非常に厳しくおっしゃった。子どもたちはものすごく素直に、プロがきちんと発してくれたことをフィードバックしていた。実は「かさぼん」を上には挿したいと言ったら、挿すという手間がかかると思う。どうしてもそれをつけたい子どもたちは、パッケージに「かさぼん」の絵を印刷したらと考えていく。それを聞いていて、大人が子どもたちだからと手心を加えることなく、本当に知っていることを真剣にぶつけていくことが、子どもたちにとってもものすごく刺激になるのだと感じた。

今日、こちらで、河合さんが「巻名人」ということで、いろいろな学校で、全国で初めて法令上の町になったとか、地ビールが全国で初めて作られたとか、巻菱湖という碑があるのも巻出身の人で、藤井聡太さんが将棋で注目を集めれば、あの将棋の駒のあの文字は・・・というようなことを話すと、子どもたちは自分が住んでいる巻はすごいのだという誇りをもつことができる。大人がまず自分たちの地域の素晴らしさを知って、それを真剣に子どもに伝えていく場所があると、子どもたちは自然に地域に誇りや愛情をもって育っていくということを皆さんの話を聞きながら思った。

学力とともに発表された中で、私、将来の夢や目標をもっていますか。学校の規則を守っていますか。人の役に立つ人間になりたいと思いますかという、この数値が、西蒲区の子どもたちが高いというのは、これはまず誇りに思っていることだ

と感じた。今日もまたいろいろなことを教えていただきありがとうございました。

田中

小野沢委員に少し付け足しをさせていただく。

教育委員

この生徒質問紙、三つ話があった「将来の夢や目標をもっていますか」、「学校の規則を守っていますか」、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」は、新潟市内の中学校でもっとも高い数値。さらに、ピンクに塗ってあるのが新潟市や全国の平均値より高いもの。それだけ西蒲区の中学生、小学生は素晴らしい力、素質をもっている。そのもとをつくってくださっているのが、今日おいでの皆さんであり、地域の方々、保護者の方々だと感じた。

どこのグループも西蒲区の子どもたちを大事にしたい、大切に育てたいという強い思いが感じられた。子どもの数が減っている中、もっと地域のよさを子どもに知らせたいという言葉や、子どもがこの地域のことを知ることによって目が生き生きしてくる。そして、その子がもしかすると大人になってまた戻ってきてくれる。そして、さらに自分たちの地域を活性化してくれる。そういう思いをすごく感じた。

昨年、中之口中学校区の教育ミーティングに出させていただいた。そこでは、地域それぞれ顔をしっかりとつないでいく必要があるという話がたくさん出ていて、将来的には小中合同で各地域が一緒になって訓練をしたらいいという話でまとまった。これが将来ではなく、昨年の話がもう今年実現できている。それだけ中之口中学校区では子どもたちを地域挙げてしっかり支えていこうという思いが強いと感じた。

先般、11月4日の日報の窓で、西蒲区の小学生6年生が投稿している。「新潟市西蒲区巻、巻は私の故郷だ。私は、この巻の魅力を紹介したいと思う」という書き出しから始まり、「学校が見えると、その後ろに角田山と弥彦山があり、周りは田畑が広がっている。風が吹くと稲が波のようになびいていて、これは辺り一面田んぼだからこそ味わえる景色だ。この自然の豊かさが巻のいいところだと私は思う。そして、これからも大好きな故郷を大切にしていきたい」と結んでいる。本当に素晴らしい子どもが育っている西蒲区。ありがとうございました。

議 事

5 閉会

長井

今年度2回目の教育ミーティングに田中先生、小野沢先生、教育委員会事務局の皆さん、ご出席のうえご指導いただき感謝。

自治協会長

今日の話聞きながら、多くの子どもたちが西蒲区大好きになって、大人になってからもずっと西蒲区に住み続けたいと思ってくれるようになっていくことを願っている。今日は大変ありがとうございました。